

# これからのニッポンの都市 景気対策は「街」の活性にあり!

## 経済危機と これからの都市の再生

幸田 底打ち感が出てきた今回の経済危機、どのようにごらんになりますか。

伊藤 この危機は金融だけでなく2つの構造変化、先進国の高齢化で年金基金などが不動産、石油、新興国に移ったこと、デジタル技術の進展で2000年から歴史はじまって以来の世界一人あたりの所得の伸び、この2つの変化が重要な背景にあると思います。

幸田 地球規模で俯瞰すると、經常赤字国の需要や消費を黒字国の技術力や輸出が均衡させてきた。その触媒役だった金融の世界的過熱が実態経済との乖離を増大させた。日本の製造業も転換期に直面しています。

伊藤 製造業の今後は海外シフトで、中国、アジア、新興国へ伸びる。日本の反省点は輸出のビジネスモデルへの過度の依存と、日本市場にだけ通用するものをつくったこと、携帯電話がそうです。

幸田 ガラパゴス現象ですね(笑)。

幸田 乱高下が続く予想ですね。V字回復を願っていますが、その牽引役のひとつとして、大都市圏での機能強化も求められるでしょう。人口減少の時代ですから、海外から見て魅力的な街、住みたい、働きたい、訪れたい都市づくりが必要ですし、都市で暮らす人にとっても都市機能の改善は不可欠です。からね。

### 地方と都市 両輪で考える

伊藤 都市機能の話となると、すぐ地方はどうするんだとなりませんが、ワンセットですよ。戦後は人口が増え、山を崩し堤防をつくって人が住みついた。今後の人口減少時代には集まって住む、つまり都市のコンパクト化と高度化が重要ですし、過疎地を減らし、森や川を自然に戻すことも重要です。都市化が進んだ国の方が農業の競争力が強いともいわれます。土地を有効に使うからでしょう。日本では今後、都市機能と豊かな自然の田舎をつくっていくこと双方



## 日本の都市は、大人が人生を楽しむ機能に欠けています

幸田



伊藤 そうです。海外に拠点をシフトしていくこと。例えば白人社会に見えるアメリカも、実際には毎年人口が300万人増える移民大国という新興的な部分がある。そして日本では高齢化社会での活力ある経済をどうつくっていくかです。

幸田 需要をどこに見いだすか、どうやって創出していくかが今後の鍵です。日本の社会構造、産業界の認識や姿勢を変えていかないと。

伊藤 今後重要なのは、医療、健康、介護、都市、住宅、環境、食糧そして教育の分野です。残念ながら現状は規制や慣行に締めつけられ、時代に合わなくなっています。

幸田 日本は官と民の協力体制が組みにくい。フランスなんか非常にシンプルにお互いが協力していますが。伊藤 経済学でいうと市場の失敗と政府の失敗があつて、その調整が重要です。規制が厳しすぎる面も多くあると同時に、いい加減な規制の分野もある。

幸田 市場の失敗への救済も必要ですが、官と民の協力体制の本質が問われています。日本がこの先どんな展望のもとに、どう戦略を立てるの

が必要、それを両輪で構築していく。アメリカの農業生産は、GDPの1%強、農業者は1%。日本の農業はGDP生産比1.2%弱ですが農業者は4.5%、まだ農業地域に人が多いのです。

幸田 生産性からいっても効率的でないですね。都市部はどうですか。

伊藤 現在は21世紀のあるべき姿からかけ離れています。いまの都市の姿は、少子高齢化、地球環境問題、新しい産業構造に見合っていない、都市は大変革すべきです。

幸田 かなり高機能な都市ですね。でも、もうひとつ気になるのは、日本の都市は、大人が人生を楽しむ機能に欠けていることです。

伊藤 私はオペラが好きですが、日本は劇場も催し物もよくなりましたよ。

幸田 成熟した国民が人生を楽しむ機能、それも需要の創出につながるはず。そもそもコンパクトな国ですから、限られた土地や都市空間を有効に使うには、住む人間が主役のま

か、官も民も考えなければならぬ。伊藤 難しい時期です。貧困の問題を重要と考える人の主張を實踐すると貧困が固定化する。一方市場の重要性を強調する人のいう通りやると市場が崩壊する。民だけにまかせておけばは幻想で、官がどう関わるか大切な課題です。

幸田 政府の経済対策の中核となる補正予算をどう評価されますか。

伊藤 やむをえない面がある。経済対策してもだめという議論もありますが、世界全体が1929年<sup>※2</sup>以上の金融危機にも拘わらず大恐慌はおきていない、世界全体で500兆円といわれる経済対策の効果は大きいのです。日本もやれるだけはやっている、しかし、減税対策で後は自由という政策は通用しません。2兆円の定額給付金でも批判がありましたから。できれば具体的な需要への転換策や将来に向けてのインフラの整備などにウェイトを置いてやるのが重要。しかし借金の多い国だからこれからも大変です。景気の見通しでも、ある会議での話題になっていましたが、日本の景気動向はU型<sup>※3</sup>かV型かW型かL型か、いやもうひとつあるドットコム型、つまりWWW(笑)。

ちづくりでない。案外日本の街つて、優れて特化している部分と、全く未整備な部分とがありますよね。

伊藤 私たちにとっては安全安心で便利な東京ですが、外国人から見ると悪夢なんです(笑)。税金が高い、子育てのメイドも雇えない、満足な国際的教育も受けにくく、やはりグローバルスタンダードへと変えなければなりません。

幸田 日本は、国としては様々な魅力があると思いますけど。

伊藤 例えば、シンガポールは住むのは快適だが面白くない。日本は京都もあれば北海道もある、食べ物も実にバラエティ豊か、しかしグロー



京都 石堀小路 祇園から東山へ抜ける石畳の道で、植栽ひとつひとつにも道行く人への繊細な配慮が溢れている。

※1 ガラパゴス現象

南米エクアドル沖にあるガラパゴス諸島において、外部からの干渉が長い間なかったため独自の生態系進化を遂げたように、市場が周囲から隔絶された環境下で独自に発展し、その結果として世界標準の流れからかけ離れていく状態をさす。

※2 1929年

1929年10月24日木曜日。ニューヨーク・ウォール街の株式市場で大暴落(暗黒の木曜日)。それを期に、一気に世界恐慌へと波及していった。

※3 U型・V型・W型・L型

景気回復のグラフの形をアルファベットで表現。一定期間低い水準にとどまった後回復するU型、底から一気に勢いを増すV型、二番底を伴うW型、横ばいが続くL型となる。